



萬
抄
拔書

特別
千12
3643
47(1)



梅若誠郎氏
昭和五年五月廿
梅若重戶氏
寄贈
田中書局

六 角 班 鞞 小 之 雜
浦 女 天 嶺 掃 波
一 鼓 六 狗 八 九 十

目錄

桑 海 百 天 田 融 老
清 人 菊 鼓 村 松
六 三 八 四 之 八 五



善界 七

芭蕉 十

志賀 一

紅糸猫 一

四島別 一

才部 一

安達系 一

心ざり 一

二人静 一

通小町 一

清輝 七

一橋一河 一

上途八難 一

東水 一

阿ふら乃古 一

心ぬをき 一

うさか 一

新巻 一

ハ馬 二

神去依人之敬増威

遊行柳 二

玉首 一

桃李を好むほど

狸 一

如堂里乃衣 一

南枝小枝 一

桜川 一

白楽大 二

夕顔 一

山姥 二

五裏 一

○唐國乃堯舜禹湯代も後起

史記五帝記云上帝堯者放勳其仁如天其智

如神云堯ト云ハ謚也 謚法ニ曰翼以善傳聖王

曰堯ト舜ハ堯ノ御子ニテモナキニ舜聖人ノ徳アルニ

ヨリテ位ヲ傳ヘラレタルハ善道アルニヨツテ其ハ善道ヲタ

スケテ聖人ニ傳ルホドニヨクナラシキト名ヅクル也放勳ハ

堯ノ名也其仁ノ道ヲ行ハルハ天ノ萬物ヲアマ子ク

養カカク其ハ智恵ハ妙ニシテ神ノ如クナル大聖人也

カラ國トハ惣メ禹辰且ヲ日本ヨリハ唐國ト云也ソノウヘ

堯ヲ初ハ陶唐氏ト云天子ニ御成アツテ後ニ唐ト云

處ニ都ヲサダメラルニ依テ唐堯ト申也堯ニ付テ唐國

孟子曰大而化之
之謂聖王云

トハ別シテタヨリアル事也 同、五帝記ニ虞舜者名
ヲ曰、重華ト云 虞ハ國ノ名舜ハ謚也 謚法曰仁
聖盛明 曰舜ト云舜ハ仁道アツテ聖人ノ德盛明トハ
サカンニアキラカナルニ依テ舜トツクリナスル也 名ヲ重華ト
云 堯ニ光華アリ舜ニモ亦光華アリ故ニ重華ト名
ヅクル也 光華ヲカサヌル義也 十八史ニアリ有、矜在民間
曰、虞舜ト云テ舜ハ民ノ中ニウチマギレテ居ル人也 妻
ノナキ者ヲ云也 丹朱ハ堯ノ子ニテアレドモ賢徳ナキニヨリテ
民ノ間ヨリ舜ヲエラビ出シテ天下ヲ堯ノ讓ラレタゾ去、程
ニ堯モ舜モ大聖人ナルホドニ天下ヲ治、タルコト日月ノ
萬物ヲ照ス如ク日月ノ光リヲバ、萬民恩トモシラヌヤウニ

堯舜
無左

わいひの詞トハ 妙はノカタチヲ 辟ラ云ニ 連華ハ、サ華
同時ノモノ 依テ 連華ニタトテ 妙は連華トツクニ 是ヲ
法辟言ノ詞ト云ニ
然ニ
ルト

當代

聖人ノ教ヲ經ト云 賢人ノ弟子ノ況ヲ傳ト云ニ
聖教スベテ 經ト名ツクルヲ 都名ト云

○萬機

尚書ニ一日カ機トアリ又後漢馮衍傳達ニカ機
之變 章懷太子曰事非一塗故曰カ機 天子
ハ一日ノウチ天下ノマツリコトイロクノ事ナルホドニカ機ト
云也 章懷太子ノ事此一塗トイハレシモ一塗ハ一ツノミチ
也一ノ事ニテナク種々ノ義ト云心也一カ機ノ変ニ達スト
云ハ一カ事ニハ変カハル事ガアルモノナレドモ何レノ道ニモヨ
リタツシタルト云心也 機ノ字ハ 機杼又ハ巧術也 機杼ハ

萬機者
文選注云萬事也
類書纂要十云
萬機者萬端
機要事也

泥渾 栢

トハ別シテタヨリアル事也 同、五帝記ニ虞舜者名ヲ曰重華ト云 虞ハ國ノ名舜ハ謚也 謚法曰仁聖盛明 曰舜ト舜ハ仁道アツテ聖人ノ徳盛明トハサカンニアキラカナルニ依テ舜トツクリナスル也 名ヲ重華ト云 堯ニ光華アリ舜ニモ亦光華アリ故ニ重華ト名ヅクル也 光華ヲカサヌル義也 十八史ニアリ有、矜在民間ト曰虞舜ト云テ舜ハ民ノ中ニウチマギレテ居ル人也 妻ノナキ、民ノ明ニ堯萬物

ノナキ、民ノ明ニ堯萬物
 入、大、天、下、ノ、事、ナ、ル、ホ、ド、ニ、一、カ、機、ト、云、也、

堯舜ノ御恩ニテ人々安穩ニアルトモ知又程ニ自然ニ無為無事也カ、ル堯舜ノ御代ニモコユルホドナルト當代ヲホメテ申也

○萬機乃政

尚書ニ一日万機トアリ又後漢馮衍傳達ニカ機之變、章懷太子曰事非一塗故曰一カ機 天子一日ノウチ天下ノマツリコトイロクノ事ナルホドニ一カ機ト云也 章懷太子ノ事此一塗トイハレシモ一塗ハ一ツノキ也一ノ事ニテナク種々ノ義ト云心也一カ機ノ変ニ達スト云ハ一カ事ニハ変カハル事ガアルモノナレドモ何レノ道ニモヨリタツシタルト云心也 機ノ字ハ機杼又ハ巧術也 機杼ハ

萬機者
 文選注云萬事也
 類書纂要十一云
 萬機者萬端
 機要事也

中陰經云

一佛成道

經凡法界眾生悉皆成佛

○一ツ花開而天下皆春

梅ハ十一月十二月、冬ノ中ヨリサクモノナルボトニ梅ガ一リン
咲ハ天下ノ草木ニナサズ云ノ事ヲウルナリ徐師川カ
詩ニ二十四番ソ花信風ト作ルモソ花ノサク次第二十
四番也梅ソ冬ニ始ツテ棟ソ花ニ終ル也

○ソ花乃精

傳異記曰崔元徽月夜見青衣女伴曰桃
氏楊氏李氏皆殊色異香アリ崔乃悟女伴即衆花精十七言云
崔元徽ト云者月ノ夜ニナキ衣裳ヲキタル女房
ノトモナヒ行ツ見ル其名ヲトヘバ桃氏李氏楊氏ト
何レモソ花木ノ字ヲ取テ名トシ色モ香モ夕ヘナルヲ見テ

サテハ皆ソ花ノ精ト知ル也又梅ノ精ト云事明白王ノ
宮人江氏好梅名梅妃上曰此梅精也云
玄宗ノ宮人ニ江氏ト云者アリアケクシ梅ヲ愛シタ
サルホドニ梅妃ト名ツ付タゾ玄宗ノ梅妃ハ即梅ノ精
ナリトノ夕ニヒゾ此謠ノ此梅ノ事年々ソ花ノ精ト
イヒシモ梅花ノ精ト云事昔モ其夕メシ有ゾ

○漢家

唐ヲ云ゾ惣別ハ前漢後漢トテ四百年ノ間ノ一代
ヲ云タレトモ前漢ノ内ノ王明帝ノ時ニ佛教初メテ
天竺ヨリ渡リタル故ニ云付テカラノ一天下ヲ漢ト今

○隴月松栢ノ
中ニ映
隴ハ山也

モ云ゾ明^{ミチラ}帝^{カイ}ヲタイトヨムナラヒ在^レ之

○唐乃帝能清時

東晉ノ哀帝ノ時ヲ云フタカ好文木ノコトカ哀帝ノ時ノ事ナク也ヲクニテ申スベシ唐ト云モ一代ノ名ツ此唐ノ一代ノ王二十二人アリ世ヲモチ夕間ハ二百八十八年ノ間也玄宗ナドモ二十二王ノ内ノ七番目ノ王也此唐ノ代ニ詩ガサカリニテ有^ルニヨリテ今^ノニ哀旦ヲ唐ト云ゾ詩ハ止^ニ於^レ唐ト云ゾ七言絶句ノ詩ヲハ推^シ出^メ唐體ト云也ニ體詩ナド是也

○好文木

晉起居カは哀帝讀^ク書^ハ則^チ四時隨^テ之^ヲ用^フ以^テ記^ス故^ニ好文木ト云東晉ノ王ニ哀帝ト云王アリ此王ノ物ノ本ヲミテ書^クラヨメバ春ニテナケレドモ何時モ梅カ開^キタルニヨリテ好文木ト云也

○秦始自能御獵

秦始自^レ能^ル御^ス獵^ス秦始自^レ能^ル秦^ノ山^ニ風^ニ雨^ニ暴^ニ至^ル休^ム於^レ樹^ノ下^ニ因^テ封^シ其^ノ松^ヲ為^ス大夫^ト史記本記ニアリ

○大夫

秦^ノ以^テ丞相^ト御史^ト大夫^ト大尉^ト為^ス三公也古^ノ官^ニハ大師^ト大傅^ト大保^ト為^ス三公ト事^ノ類^ノ聚^ル新集一^ニアリ始^メ自^レ能^ル秦^ノ松^ヲ三公ノ内ノ大夫ノ官ニナサレタル也御獵ノ時ト云ガ本傳ニナガフタル也始^メ自^レ

ノ封禪ト云祭ヲ泰山ト云山ニテマツラルゾ封ハ天ヲ祭
禪ハ地ヲ祭ル心ヅ泰山ヲ下リサマニ俄ニ雨フルホドニ松ガ
五本有タル下ヘヨリテ雨ヲサケテ其恩賞ニ五本ナガラ
皆大夫ト名テ五大夫ト五本ヲ云ゾ俄ニ大木トナリ
タルトハ本傳ニナキ也 爵トハ位ヲ官ニナシタ事ゾ爵
位ハ位ヲアグル也

秦ニテ大夫ノ官ハケツコウナル官也夫ホノニ公ハ丞相
御史大夫大尉也 唐ハ時代ニヨリテ三公ノ名カハ
ルゾ
大夫ハ唐名ナリ爵ハ日本ニテハ諸位ノ惣號ナリ
但又始テ五位ニ叙スルヲ叙爵ト申也

○ 新羅也ろのい

新羅百濟高麗コレヲ三韓ト云也又ハ辰韓
馬韓 韓 韓ヲモ三韓ト云ナリ 神切白皇后ノ三韓
ヲ退治アリシヨリ以テ百濟國ヨリモ切々ニツキモノ
ヲソナフ使者有ツゾ人ノ新羅百濟ノ富々高麗ヲ一ツ
ニ合セテ朝鮮國ト云タゾ

○ 惠國格民

史記五帝本記ニ高辛ハ仁而威 惠而信
格教ソ萬民而利誨之トアリ國中ノ者ニ恩
惠ヲ普ッホドコシ民ヲナテツケテ何事ヲモ失ノナキヤウニ
ヨク教テサスル心也

○諫鼓苔むし

諫鼓苔深き不_レ窮_ル りおて_カ侍 白氏文集二十一
諫鼓ノ賦ト云モノヲ書ク_レテ_ハ時_ニ諫鼓ト云事ハ始
メ_テ貞觀改_メ要ニ魏徵曰_ハ堯有_レ敢諫之鼓舜
有_レ誹謗之木云 是ヲヒホウモクト云

○和州三輪

大和國三諸山ヲ又三輪山トモ云三輪ノ明神其
山ノ麓ニアリ社壇ハナクシテ只杉村バカリノ神體ハ
素盞_ノ爲_レ子_ノ清子大己貴_ノ爲_レ也男體也然_レテ
女體トハ心得カク_レ但_シ天照太神ト一體分_ル身_ナル

故ニ_レ般若ノ引_コモ_レル事ナドヲ作_レリ太神女體ナ_レハ
分_カノ義ヲ以_テ如此_ニ作_レルカ_ニ玄賓僧都ニ_レ依_ル
事モ所見タシカナラズモ_レシ_テ玄賓ガ夢ナドニ_レ三輪ノ
明神女體ノ次女ナル事ヲ見タル歎_キ其_ノ故ハカク有_レ諸
キ夢ノツケサムルヤク名殘ナルラント云イヒラサメニ_テ推察
也然_レハ男女ノ違_ハ不_レ寤_ルモナキ事ナルヘシ_ニ末_ニ麻_ノ六神
道ヨリ記_シ出_サルヘキ者也

○老お不_レ定

白氏文集ニ_レ淳生都_テ是_レ夢お亦_レ何_レ殊_{ナル}

○山頭_ノ夜_ニ裁_テ孤輪月洞_ノ口_ニ朝_ニ噴_ク一片_ノ雲

百聯掛_レ解_ニアリ此_ハ中_ノオクニ_レ嘉_ノ加_ノ請_ノ癸_ノ亥_ニト_レアリ

メテ_レナル

嘉靖四十二年癸亥ノ年ヨリ文禄四年マデハ二十三
年也近キ書ナルホドニ信用ハナケレドモ印本ナルホドニ
出處ニ書之也

○山影入門推不出月光鋪地掃還生
百聯抄解ニアリ

○^{たぐ}赤彦ハ三輪ノ山ニ居ル也ふくむまをたぐさる門
右ノ赤彦取法師ノ云ニ輪ノ明神ノ御歌トマウス説
ナレドモ怪ニシレズタゞ三輪ノ山ノホトリニ住ケル人ノヨルナ
ヘシ拾遺集ニ住吉ノ明神ノ院宣ノ事トテノセ侍リ
○^{こつ}つねノききよきよたそわの衣くるもあまふきよもあま
三輪者古記云古ノ瀛浪蒼海ニ三輪在金光

浮浪^ス天地開闢^{ヒラケ}三輪金光成^テ三光神化^リ生^ス其
中^ニ矣

シルトオモフナルト思ハレトハ法全記云供養^{スル}自他
四法身^ヲ不受^テ而受^ル哀納^ス受^ス矣此意也
四法身者自性受用變化等流也自^ハ自身他^ハ他人

○^{こつ}乃^ハ痛^ハ子^ハ早^ハ振

二^ノ首^ノ事^ハ神^ノ事^ハ神^ノ事^ニシカラス法^ノ作者^ノヨル歌

○五濁其^ハ塵^ト小^マ一^ノリと
五濁同塵者一^ニ劫濁是^ハ時^ノ首^也時^ノ首^ニ有^二
一^ニ妄^執有^レ苦^則長^ク有^レ樂^則短^シ二^ニ時^ノ長^短
二^ニ命^濁今^ハ吾^ノ身^ノ心^ト身^トヲ^シメ^ツ命^也三^ニ煩

愆濁心ニオモフ事ニゴリタル也 四見濁色ヲ見テ愛
スルニゴリ也 五衆生濁慢心ヲ起シテ人ヲアナル義也

○おしま記乃乎

舊事紀ニ大己貴神虚空ヲ飛行自在ニアルキテ
オモヒモノ妾ヲモトメ給フ活玉依姫ト云アリ是ヲ妻トシ給フ
ヤツテ世ノ人サラニ是ヲシラス其姫ホドナククハイニセリ父母アマ
シコテ姫ニ子細ヲトフ姫コタヘテイハク神人ノ如キモノヤノ
ム子ヨリ來テ枕ヲナラブルト云シカラハソノセウセキラコト
テシタマキトテ糸ヲ玉ノ如クマキテホドケバクルリノト
トクルヤウニシテ針ヲモテ神人ノ衣ノスソニツケ或ハエリ
共アリ早天ニ其糸ニシタガヒテトメユケバ節フシ渡山トモヲ

ヘテ吉野山ニイリニ諸山ニトツマルソノマケル絲イトガ三口
ガ子殘レリ是ヨリニ輪ト申也ソノ神ハスナハチ大三
輪大明神ニテマシマス也

○志也等にうはれ月新まて後十いさうに海る
五湖歸去孤舟月トニ體詩ニアリコシウニ歸ル
身ノト云タモ此句ノ歸去孤舟月心乎
は書云に海るといふをみて又其孤舟をハチカケシ
シモンノ字未考

○也一後賈島あつゝのちもふるるいんをうはるの地
中於接済いたく月下其のおほもあまもむ故人心
唐ノ賈島ト云者木子疑カ幽居ヲ訪テ句ヲ得タリ

鳥宿池中樹 僧推月下門 云句也 又僧ハ
敲ト十サンカ推ト十サンカト是ヲ子リキタヒテ吟シテ
手ヲ以テ推敲ノ執カラシタルトキニ韓退之ニアヒ
タレバ路ニテ韓退之カイヒヤウニハ敲トシテヨカラント
異見ヲシタルコト也 故人ノ心トハ退之ヲモ又賈島ヲモ
故人ト云ヘシ

○ 音羽山をもとにきくつゝを道坂の冥林のまことに卒もぬる哉
古より志ノ高し オモフ人ニアハ又心ノ高也

○ 貞のよきふりて
五猷ト云者ノ知音ニ載^{タイ}士^キ達ト云者ガ山陰ニ居
タル宮ノフリタルトキニ逢タフ思フテ興ニ乘シテ門ニテ

行タレドモ又俄ニ歸リタク思フタホドニ門ヨリ歸ルトキニ
興盡テ歸ルト云テ其ハマ、歸ルヲ興^{スル}ハ^ニテ海ルト云ゾ
乗^{スル}興^ハト云ハ興^ハニヒカレテ行^ト云心也 排^ハ句^ニニアリ
○ 秋^ハ月^ノ乃^ハかつ^ハお^ハや^ハい^ハち^ハある^ハむ^ハある^ハま^ハは^ハる^ハに
桂ノ木ニヨソヘテ之花ハ光ニテ咲マウナレトモミナラザルトコ

○ 曲水
昔周公ノ洛邑ニテ流水ニ因テ汎^{ウカ}酒^シ故ニ詩^ニ羽
觴^ニ隨^フ波^ニト作りタリ又秦^ノ照^王五^ノ三月三日ニ河
曲^ニ酒^ヲ盃^テ飲^{タル}ニヨリ曲水ト云事ヲ定タリ此^ノ下
事文類聚取^ニアリ

○ 一輪も降りては万水も昇る

是ハ刊定記ニ一月不降百水不昇ト云語アリ
言ハ月カ影シウツスヘシトテ天ヨリ降ルモナシ百水
不昇ト云ハ水ハ百處ニアレトモ何ノ水モ月ヲ移ス
ヘシトテ天ヘソリタル中モナケレトモ自然ノ道理ニテ
孰ウツト云義也此刊定記ノ語心ヲ取テ如此
地リタルトヘタリ一輪ト云月ノマルキヲ車ノ輪ノスガタニ
似セテ月トイハズシテ月ヲモタセタリ百水ヲ万水トナ
シタルモ同シ也

○やちとちつとるもちつとる

文選高唐賦ニアリ

楚^シ襄王ノ夢ニ巫山ノ神女ニ逢フ神女ノ云ク朝
ニ為^レ夕^ト暮^ト為^レ雨^ト參^レ會^セント云ゾナギリノ中

三代高唐賦ニ元慶四年五月十八日
後四位上行右近衛權中將兼養
濃權守在原朝臣業平卒云

○此大原野乃行幸

素御百人首初まねいふくくう上小はり幸と
いひ上皇小はり幸といふことされば二代中孫まを
そわのちるる亦西文抄小はりまけてありを此より
乃中や

天子ハ行幸院ハ御幸春宮后宮ナドシバ
行啓ト云然ハ小墮ノ諷大原野ノ行幸トイハズ
故ハ二條ノ后ナレバナリ

○山女かをき

山ノカセキ鹿ノ中ノ角ノ杵ニ似タル故ニ名ト也山
カセギ人ノ木シニナヒテ出ル様也

○志もゆる人

柴取古人也又皴古人トモアリ

○老わらるやとわらるん

学乃学子ぬふてふ梅枝ちかの老あくるやとと
て切きせん 学乃学子ニ又フ事ハナケレトモ梅カ枝ヲ
ホツタフライヘリ

○天也花ふるつら

天醉于花桃李盛也十六 朗詠ニアリ

○屋おとちふ記

無止事也 貴人ナドヲヤゴトナキ人ト云フ思召立タル
事ハし無停止心ニ

○去宵一刻直千金范有清香月有陰东坡

○武苑野ハけふちもやそめ草花妻もたむしりふちせしむ毛

前書ニ此野ハ又ス人有ハ火ツケントストアリ

去々草ノモエ出ルラ草ノツマト云業平モコレルラ如此云ナス

○大和国小島寺といふふけんちんといふ海

大和国小島寺ノ海門延鏡元亨釈書二十八卷ニアリ
小島ハ多武峯ノ近所ニ

○行叡居士

元亨釈書二十八ニアリ

○普天下率七乃うち

毛詩十三云普天之下率土之濱ヒシ莫非王臣
率ハ循也ト注シタゾ土ニシタガフト云心ゾ土ノアル程ノ陸
ヲ皆ト云也天下采心王臣ト云義也

更カウハ改カイ也一時々々ニテアラタマル時刻ヲサシテ更ト云ハサル
ホドニ更ノ字ヲアラタマルカハル。サラニト讀也五更トハ曉寅
ノ刻ノコト也一點ト云ハ一時ノウチヲ五ニワケテ是ヲ一點
ト云ハサルホドニ初ノ夜ノ戌ノ刻ヨリ亥子丑寅ノ時ヲ
ヲ五更ト云也一時間ニ五點ツナレハ五更ニハ二十五
點ニテ夜ガアクル也

○班女

班女ハ小姑國野上ノ宿ノ遊女也コレヲ班女ト号スルハ
此女ノ扇ヲ愛セシユヘナリ班婕妤ト云班女ト云者アリ
漢ノ成帝ノ時エラヒ出サシテ後宮ニ入ル者也後ハ寵

夕暮ハ云乃
そおふふ天つ
をちるる人も
あふとて

○班女閨中

朗詠ニアリ宮ノ詩ハ素ソ純ジュントテ白キウスギ又ニテスル物
ナレバ名ノ名ヲタトヘ班女ガ閨ノ中ニアル秋ノ扇ノ如シ宮ノフ
ル聲ヲ物ニタトヘ楚王ノ臺ノ上ニ夜琴シヲヒクガトシト云
意也楚王彈琴ヲト云語ハ史記ニアリ

愛ヲトクテ有シ時我カヲ扇ニタトヘテ怨エン歌カ行カウ
ヲ他テ成帝ヲ恨申スルコト有ソレ扇ハ寵チ愛セラウル時ハ
君ノ懷フニイダカレ袖ノ間ニ出入スルトイヘトモ秋風吹ハハコ
中ナドニナゲステラレテイラヌ物ニナルナリコレヲ我身ニタトヘ
リ今ノ野上ノ班女ハ扇ヲサバクリタル者ナル故ニソレヲタト
ヘテ班女ト云也

夏もいる扇と妹のまをふとひまをせんおんとなんとも

古文書
前集ニ
アリ

○ 固、空乃扇也、空ちふれり

班婕妤カ固雪之扇代カハクテ岸風兮長シズ忘シズ 詩詠

○ 鷄、以龍山

方輿勝覽四十九ニアリ

○ 三重、かさね

捨扇ノ兩ノ端ニ枚ヅツム也ニ重ユガサ子ウスヤウ表
白ク裏スハウシ

○ 竹馬、よきや、此里乃道まよひと此友

竹馬ハタケム也ラサナキ者ノタムニスル子ニ竹馬戲ト
云子鶴林玉露ト云本ニアリ竹馬ノ遊ト云子モアリ

○ も、せいせいは
常はト云
心

七歳ノ故事也 王元長カ云七歳竹馬之遊カト海カイ録ロク
友直友トシ諒キヲ友トシ多ナ聞ク益ナリ也 益我智恵ヲマスト
云義ニ論語ニアリ

○ 牛羊歸徑、險鳥雀取長枝深

玉屑四ノ卷ニアリ

險ヲ街ニカヘタルカ
往考

○ 比目乃枕

比目魚ノ名也余雅ニ不レ比目ハ不行トアリカレト云
魚也ト云説アリカタクニ目アル魚也然ル間魚ニツ
スイツキテ目ヲナラベテ水中ヲ行ユヘニ比目ト云ニ比目ノ
枕トハ枕ヲナラヘタルトイハン為ナルヘシ
比目ノ枕出所不詳

之^ツ日退^ツ三舍^トアリ魯ノ陽公韓ト合戰ノ時
日カスル時ニ戈ヲ以テ日ヲ三舍^トアトヘサレモドレテ合戰
シタコトアリ一舍ハ一里計也三舍ハ三里ハカリ心ツ
日ノ暮ルヲ惜ムニハ魯陽カ戈ノ子ヲ云ツ韓ト戰
トキノ事也

○ 華原磬石 泗濱石

白氏文集三云世筆石々々古人不聽今
人聽 泗濱石々々今人不擊手古人擊手トアリ

○ 雨霖乃恩小

朗詠ニ途春乍^{チニ}變^ス將^ニ布^ト雨霖^ト恩^トアリ又

白氏文集ニ云君恩如雨露トアリ雨霖ノ恩
ニテ花ノ開ル如クト云義也

○ 雲乃濤々々如浪。直下

白氏文集第三云 海漫々直下無^ッ底傍
無^レ邊 雲濤烟浪 下畧 漫ハ水ノ廣大^ト見ト
韻會ニ注シタツ直下トハミオロストカタチヨミ也言ハ
大海ノ水ノ廣大ニ漫々タルヲ直下トミオロセバ底
ナクワカキト云事也

○ 千里之行始於足下。老子經ノ語

千里之行始於足下。老子經ノ語

○ げうせつと おゆるりし

或云 恍惚 忽々
鉄櫃云 徒然神注
老さるがひて
世に子體乃
字をささるかふ
とすなり已上

○ 實之界ハ處ちよ一唯一室此カ

此一段ハ眼入所ナレトモ深キ意ハカリソメハ顯シ
カタシ故ニ大方ノ意思ヲ云リ、此一世界ヲ欲界ノ色
界ト無色界トニツニ分ケルラ三界ト云也但如此
三界トイヘルモ迷タル眼ニテ見タル邊也ト云る中
金剛
三昧經ニ以染塵故名爲三界ト説レリ此意
ハ染塵トハ千リホコリニソメラレテ明ナル虚空モ見エワ

カ又ゾ其ハゴトク迷ノ塵ニソラル、故真實ノ明心ノ實
體モニエヌト云る中ラ説ケル文也サテ迷ノ千リヲ打拂
テ心淨ケルハ三界ト云ッ差別モナキゾ此中ラ者ノ經
文ノ末ニ心若在淨諸境不生此心淨時應無
三界ト決レタリ三界ノ一切ノ法ハ假ニ和合メ有コトヲ
譬ヲ取ル時大智度論ノ第八十九卷ニ一切ノ法ハ
但從名字和合更ニ有餘名如頸足腹脊和
合故假名爲身ト云ヘリ如此見タテヌレバ三界ノ諸
法尚實體ナレバ况ヤ吾此一身ト云モノモ唯一室上
ニ假ニアル身ト云る中ラ唯一室ノ身トハ云也此中ラ佛
昇切利天經上卷ニモ曉了^{スレ}一切猶如^シ虚空其

三界者心之所為不計斯心無有^レ色像亦不可觀無有^レ處所トイヘリ但^レコレハ佛法ノ中モ深意アル^レ也トヤスク思ヒ量ル^レ事ニテハナキ也今^レ諡ノ辭ノ面ニ隨テイル計也明達ニ値テ知ヘキ者也

○千行乃此淚

宮怨^{キウエン}ヲ題シテ劉媛^{リウエン}カ詩ニ淚痕^{レイコン}不學^{ブガク}君恩斷^{クニオンタン}拭^{シキ}却^{キヤク}千行^{センギョウ}更^ニ萬行^{マンギョウ}ト作^スタゾ行^{ギョウ}ノ字ハ行列^{ギョウレツ}ノ時ハツラナル^レ意ゾ悲^レノ淚カ千モ一カモツラナリ流^ルル^レ如此云ゾ又王頌^{ワウソウ}駕^カガ詩ニ一行^{イチギョウ}ノ書信^{ショウシン}千行^{センギョウ}ノ淚^{レイ}トモ地^チナリ

○萬事ハ夢中

梁鍾^{リョウシュウ}ト云者^{ト云フ者}傀儡^{クワイライ}ヲ題シテ作^ルル詩ニ須臾^{シュウイン}弄^{ニシ}罷^{ヤメテ}寂^{セキト}無事^{ムジ}還^テ似^ニ人生^{ニシ}一夢^{ニシ}中^{ニシ}ト云タゾ傀儡^{クワイライ}ト人形^{ギョウギョウ}ヲ作^ルテ舞^ルハスル^レ云ゾ和訓^{ワクン}ニハクヱツト讀^メリ人^{ニシ}カ舞^ルハ止^ムハ手^テハ手^テニナリ足^ヲハ足^ヲトナリテ何^レノ振^ル舞^ルノ事モ人間^{ニシ}ノ一カ^{ニシ}中^{ニシ}ノアダナル^レワザモ同^シヤウナト作^ッタゾアダトハ空^ノ字^ト也

○肩もちのう

晉ノ殷仲堪^{インチュウカン}カ傳ニ木林^{ボクリン}然^{トシテ}比^ブ肩^ノトアルゾ木林^{ボクリン}然^{トシテ}トハイカニモケタカキ姿^ノ也

○麒麟も老ぬれハぬる馬小カ

史記^{シキ}列傳^{レツデン}第^ニ二十六^ニ卷^ニ荊軻^{シュウカ}傳^ニ曰^ク田光^{テンカウ}曰^ク臣^ニ聞^ク麒麟^{キリン}盛壯^{セイシュウ}之時^{ノトキ}一^ニ日^{ニシテ}而^{シテ}馳^ス千里^{ニシテ}至^リ其^ノ衰^ニ老^ニ

又出戰國策

駑馬先^{タツ}之^ニトアリキリンハ千里ノ馬ト注シタゾ駑^ニ馬^ト注シタゾ又文選
トハアリキ馬ゾ字書^{シヨ}ニモ最^{トモ}下馬也ト注シタゾ又文選
第四十七卷ハ御駑馬トアルヲ駑^ニ劣馬也ト注シタゾ
然^ルニキリンハ仁獸也ト云テ必^ス千里行^クナド^ニ用^ヒガルゾ
サレドモ世話^ニモ逸物ノ一^トスハ俱^ニキリント云ホドニ不^レ苦

○善界

此字イマダツマビラカナラズ善界ト書ヘキ乎其故延德
四年愛宕山修造ノ時ニ相國寺ノ横川ノ勸進帳
ヲ書レタ其序ニ昔日伎ノ行者愛宕山ニ上^リラントスル時
嵯峨ノ奥ニ住庵セシ雲遍^リト人ト同行メ清瀧ニ至^リ

シニ瀧ノ上ニ雲^ヲ起^リ雷雨^シキリニシテ行カ子^シニ二人^ニ秘
密ノ咒ヲトナヘテ祈^シカバ天^ノ氣晴^テ五佛^其上^ニ光^ヲ
放^ツ又大ナル杉アリ其上ニ天竺ノ日良^ノ唐土^ノ善界
日本ノ太郎房其外眷属ノ天狗ドモ其杉ノ上^ニ現^ル
二人^ニ告^テ曰我等^ヲス誰^トカ思^フゾ二千年^以前^ノ靈
山會上^ニテ佛ノ付属^ヲラケ大魔王ト成^テ此山^ヲ領^ス
衆生利^ノ益^ノ多^クナリト云^ハツテ各^々ニエズ成^{タル}トシ
サレタリ善界ト太郎房ト會合^シタルトハ此^ノ中^ナ
ルヘシ佛法ヲサマタゲン為^ニ日本^ニ來^{タル}トハ謠^ノ地^者
ノコトバヲ加^ヘタルナルベシ

○云月王山

慶元府アリ方輿勝覽見エタリ

○ 青龍寺

京ニアリト才子傳ノ賈島カ傳ニアリ

○ 般若臺

廬山記ニ見エタリ

○ 蟪蛄の介

蟪蛄怒辟月以當車轍ト云るハ莊子ノ天地ノ竹扁ニアル也サレドモ介ノハナシ辟月ノイカリタル體ヲマサカリヲフリアゲタルカタチニタトヘテ云ナリ是ヨリ蟪蛄介ト淮南子ニアリ

○ 猿猴の月

癡猿捉月而弗見カト云語花系法數ノ跋ニアリ水ニウツル月ヲ猿ガトラフトシテカヲツクスルコト又獼猴捉井月ト云フト義林楚六帖ニモアリ人ガチナル事ニ云也

○ 大内山

内裏ニ云左大将直廬中ノ重ニ有ト也林示中圖ニ云亭子院仁和寺ノ大内山ト云所ニオハシテ是中納言兼輔歟

新勅撰 白雲九重にうつ山領を以て大内山と云ふを以て

新古今

○ 吉野形なる川は海に鴨を呼ぶる山陰

○芭蕉之事

せうりやていしとちり

湖海新聞云安成彭元功竹染庵山中使
一奴守之一日暮時有婦人求宿自稱
小水人奴固拒之婦人入奴臥室中不去
奴推之夜中又登奴榻奴舉而擲之
輕如一葉奴懼取佛手執之婦人笑云
汝謂畏經耶天將明庵有神鐘起擊
之婦人云莫打打得人頭碎遂去
奴趁出門觀所向入松林間忽不見蓋
林中芭蕉叢生也奴歸見壁有五言
詩大意婦人芭蕉精也詩云妾住小水

邊君住音山下云

此故事ハ安成ノ彭元功ト云者山中ニ庵ヲ結テ
居シリニアル日ノ夕方ニ女未テ宿シカル何者ソト
問ハ是ハ小水ノ人ナリト答フ彭元功カ奴コノ女ヲ
ヨヒ入サリシニ婦人トモヘフドニ入テサラスシモ是ヲシ
イタセトモ女サラスシモベカ心ニコレハバケ者ナリト思ヒテ
子ドコロヘモヨセザリシニ夜又シモベノ宿タルやハカルシモベ
コレヲナゲマリタレバ其カルキ中一葉ノコトク也其時シモベ
オソロシク思ヒテ印シムスビ呪ヲトナヘナドシタレバ彼女サ
ヤウニ鍾ヲヨムトモオソルベカラスト云一夜アケカタニナリテ其
庵ノ鍾ヲツキタレバ鍾バシ推テ頭クダクルト云テイマカ

リテ遂ニ去タゾ門ヲ出テ見送タレバ松ノ林ニ入ルト見
テ其女ヲ見失フ其アメリニ芭蕉ムラ^ガ中^ヒタリ庵
ニ歸テ^レこ^レバ庵ノ壁ニ五言長篇ノ詩ヲカキ付テ
ラク其詩ノ心ヲヨク見レバ此女ハ芭蕉ノ精ナリト
キコユ其ハ詩ニ妾住小水邊トアリ是ヲ以テレバ
小水ハカチラズ^クや^クノ名ニアラス水ノスコレ流ル^ルホトリト
云^ハ心ナリ此故事ヲマヘテ洄^ルルトこエタリ

○ 芭蕉^ノち^ノ芭蕉

雪重裏、芭蕉麻手^{キツカエ}詰畫ト簡齋カ詩ニ洄レリ
やノ時分芭蕉ハナキモノ^シ然レトモ王麻手詰ト
云畫カキ畫ニ妙シ得タルニヨツテ手ニ任テ意シ得テ

不^レ論^ニ時^節即^ラレテやノウチニ芭蕉ヲカキタル^コナリ
畫ソラコトハイフハ是也筆談畫評ト云本ニアリ
コノ^コ中^ハ芭蕉ノ精ナレハ芭蕉ニタヨリテイツハレル
妾ト云ハンタメノ枕詞ノヤウニイヘリ芭蕉ハ草ナルニ
人ノ次女ニ見ユルハイレルスガタ也

○ 芭蕉省花時錦帳下^ニ居^ル山^ノ夜^ノ草^ノ庵^ノ中

白樂天カ詩^ノ胡^ノ詠^ニモ^ルル^シ芭蕉省ト云ハ校書
郎トテ物ノ本奉行^スル官人ノ居^ル所^ニ白樂天ガ
字^ノ庵^ニ宿^セシ時^ニ作^ルル詩也^ト言ハ^ハ芭蕉省ノ夜^ノ
時分ハ錦ノ戸^ノバリノ下^ニ居^ル官人ナレトモ只今ハ隱
居^シテ^ハ庵^ノ山^ノノ^コ夜^ノ草^ノ庵^ノ中^ニ居^ルコトヨク^ク作^ルル詩

○庭乃もを山陰に於て

庭面ヲ。ウタヒノフニ付テ庭ノモセト入レル乎

○近水楼志先月向陽。总木易為春

蘓鱗カ他タル詩

○よーやおもくも望也。〇きくちふり

是ハ列子ノ周穆王篇ニアル故事ヲクナリ鄭國ニ新シトルモノ也。鹿ニアヒテセ鹿ヲコロシテ人ニ見ツケラレドトテミヅノ中ニカクシテ芭蕉ヲオホヒニシテヲキテアメリウレシクテ其ヲキキテヲスレテ夢タカト思ヒシコトアリ此故中ニ此後モ又夢ニ見タル中モアリトカク夢タノ故事也。コノ心ハ此世ノ定ナキハ鹿ヲコロシテ芭蕉ヲ

オホヒニメヲキテ夢タカト思ヒ又ウツトモワキマヘザルヤヌラ定ナキ世ニタトヘテ云也

○いりさ山 但る名ふ

後撰 梓弓の歌に山ハ秋暮のあはれや山也。まゝとらん

○緯経

なうまおはるゑの歌にまよふかど山ハ錦はおれハかつちる

○もも枝乃あふき

芭蕉 閑緑扇 木子義山カ詩

○背燈 共憐深夜月

白樂天カ詩。朗詠ニノセタリ。夜ノ更タル月ノ面白サニ燈ヲツケテオキタルトハ憐ムトハ心多シコノ心ハ興ハジテ面白ガリ

タル心也

○ 楊あもれおふ乃うい利木

生浦ハ解勢ノ名所也楊アサノ生ルトウケタリ麻ノ
生ルハ楊ノツ花ノサカリニト云説アリ又麻ノ名楊ニ似タ
ルトモイヘリオフノウラニカタエサシオホヒナルナルモナラ
スモ子テカタラハン 解勢ノ麻厨宮へ利木ヲ進シ奉ル志
摩子國アリナルモナラスモトハ思フ子カナヒカハズ寢テ
カタラハント也利木ノナルニヨセテイヘルコトバナルベシカタ枝
サシオホヒハ枝ナドノサシオホヒタル利木ノゴトクキ又ウチカキ
子テ思フコトカタラハント也

○ 誤て半日乃客らむる

誤テ入仙家 雖レ為半日之客 恐歸 舊里
逢七世之孫 朗詠江相云

半日ノ客ト云子イマタ具ハ出所シラズ但シ今葉
スルニ後漢ノ明帝永平ノ比ナルニ 剡縣ト云所ニ
劉晨阮肇ト云者二人アリ天台山ニ入テ藥ヲ
採ルトテ誤テ道ニ迷テ還ル子ヲ得ズ時ニ山頭ニ
イカニモ色美シキ桃ノツ花アリ又傍ヲ見ハ蔓草早
モアリサテハ此所ニイカサマ人家モヤ有ラント思ヒヨ居タ
レハ又一杯カ 涧水ニ流テ流レ来レリサテハ疑所モナク

人アリト思テ又一里計山谷ヲワタリ行ケレバ案ノ如ク
顔色と無雙ノ女二人出オホリテ彼兩人ノ者ノ名ヲ
ヨビ久シク馴シタシメル者ノゴトクニテ種々ノモテナシラ作シ
酒者ヲ調へ歌ヲウタヒ樂ヲソウシ懇志ヲ盡メ日モ
漸暮ヌト云テ各還リ去レリ彼兩人ノ者ハ女ニナ
リラ惜シ跡ヲシタフテ往クソ遂ニ半年バカリモ留マリ
ケリ續齋諧記ト云本ニ出タリ今半日ノ客ト云
タルハ日ノ暮ヌル前ノ事ヲフマヘテ云タル歟 重テ考
べシ

○ 聖人ト云フ夢

文中子ハ至人ト云フ夢トモアリマツ聖人ト云ハ五百

年ニ一度出ルト云唐土ニテモ堯舜禹湯周公
孔子コレヲ申也聖人必ス夢ヲシ又ニアラス孔子モ
夢ヲシモ周公ヲ見スト云ハシタトキハ夢ヲバシラレタト
聞エタヅ殷ノ高宗モ傳説ヲ夢ニ見ラレタヅ又
醫書ニ五夢トイフテ五臓ノ病ニヨリテソレクノ
夢ヲ見ル事アリ聖人ノ上ニモ一病ナクテハカナフマシケレバ
五夢ヲ見ルコトヲハマヌカルベカラズ聖人ニ夢ナシト云ハ
雜夢ヲシニスト云コト也
マタ皇侃疏曰聖人懸照本無俟夢想皇
侃ト云キ者ガ論語ノ疏ニシタヅ一言ハ聖人ハ生シナ
カラニ物ヲヨクシ知ル人ナルホドニ懸心トハ未オホハルカナ事ヲ

照しル程ニ夢ナドニ見ルコトバマタヌヅ

○一葉此舟の如し也

黄帝見浮葉造舟韻會曰浮水葉也

又共泛瀟湘一葉舟ト韓退之モ詩ニ作ル

ナリ舟ノ水ニ浮タルヲコシハ一葉ノ水ノ上ニ浮カ如トシ

○海を起ちよ

し無道トカク又し無端トカク

○岩代乃まじ

右有間ノ王子ノ事ヨリオコレリ 岩代ノ結松ノ事 吾林良材

右有間ノ王子ハ孝徳天皇ノ御子也 齊明女帝御

時蘓我赤兄ト心ヲオナシクシテ御門ヲカタクケントセ

シカ紀伊國岩代ト云所ニ有テ心サレトケカタク

ラシクシウレヒテ其所ニ有ケル松ノ枝ヲムスヒテ手向

ニナシテ此歌ヲヨミ置テ外へ出給ヒト也 松ノ枝ヲムス

ヒテ思フ事カナハ此松ノ枝トカク折言ヒ給ヒトゾ

やうてう

笛ノ名ト申ツタユル也 但シ字未考得

○愛欲負甘也乃心也

愛欲トハ男女アイ心之法筆云諸君所欲令負欲

為本矣 愛心ヲ令負ト云フ噴ハイカリ思ヒ擬ハシ

口カ也

○通玄道場

通玄者心玄ニ通ズル也道場者淨名經云
直心是道場矣直心ハ色ナケレハミルコトアタ
ズ故ニ玄ト云也真心ヲ了シテ真ニ至ル道場ト
云心也

○志ぶ起れ道乃ちわかしきに

是ハ獵ノ時射子ノタツ所ヲ木ノ枝ナドニテ射ノ
ノミエ又ヤウニカコウヲ申也

○一樹影小庭と望一河乃流も汲皆是地生縁

一樹陰
太子説法明
論之語

トハ昔白拍子ノウタヒタル謡也ト云 又一河流
ヲ汲酒トハ昔者良將之用兵有饋簞醪
者使投諸河與士卒同流而飲夫一簞
之醪不能味一河水而三軍之士思為致
死者以滋味之及已也昔良將ノ兵ヲ用ル
ヤウスラ云也人ノ簞醪ヲオクル者アリ簞醪ハ一簞
ノ濁酒也簞ハ竹ニテシタル器也小竹筒一ツノスクナ
キ酒ナレバ諸軍勢ニ飲スヘキヤウナレ故ニ其酒ヲ河
ト入テ士卒ニ河スルノ流ヘユイテノメト云五人三人ニ
此酒ヲノミシメテハ自餘ノウラニ有ヘシ諸士卒ヲヒトシク
思フト處ヲニセンタメニカヤウニスル也一簞ノ酒ヲ河中

ウキ入テハ一河ノ水ガ濁ノ味ニナルヲハナケドモ三軍ノ
者共カ大将ノ夕ノニ討死セント思フコトハ大将ノ
貴賤ヲ口ケズヒトシク此濁ヲノマセラル、アリガキト思フ
テ也三略ノ語也

○ 四鳥ノ別

家語第五云孔子在衛昧且是哭顔回
侍側聞哭者之聲甚哀子曰回汝知
此何所哭乎對曰回以此哭聲非但為
死者而已又有生離別者也子曰何以
知之對曰回聞桓山之鳥生四子焉羽

翼既成將分于四海其母悲鳴而送之
哀聲有似於此謂其往而不返也回
竊以音類而知之孔子使久問哭者果
而父死家貧士賣子以葬與之長決
子曰回也善於識音矣
四鳥ノ別ハ孔子一期ノ間ノ事ヲ記タル家語
ト云フニアリ孔子衛ノ國ニマセ時ニ顔回カ孔子ノ
カクハラニ侍リ人ノナク聲ノツヨク哀シキケリ孔子ノ
顔回ハ何事ヲナケク音トシルヤト問ハレタハ顔回答
テ申様ハ此歎聲ハ死人ノ夕メニナクニテハナシ生テ
別タル者ノ為ニカナシモノ也ト申ス孔子ノ何ト聞知

ソト問レタレハ顔回カ申スヤウハ植山ノ子カ子ヲ四ウハ
羽^翼興ガオヒソウテ四方へ別レテ飛時ニ其母悲ミ
鳴テ四ノ子ヲ送ルニ其鳥ノ鳴聲ニ人ウ哭スル人ノ
聲能似ルト云也顔回鳥語ヲキクカ故ニ其音
ノ類ヲ以テ知ト申也孔子ノ人ヲツカハシテ哭スル者ヲ
問セラレタレハ果シテ云子ハ父死シテ家貧シ子ヲ
士買テ葬礼ヲスルニ只今ウ其子ト長ク別ル程ニ
ツヨクカサシムト云也孔子ノ顔回ハ音律ヲ能ク知リ
タルトテホメラレタゾ四鳥悲^異林ト文選二十七
卷アリ四鳥ノ別トハ此謂也

○三途ハ難乃惡難小墮

三途トハ火途血途刀途也外^外地獄畜生録鬼
ニアツル也地獄ハ熱ノ猛火アレハ火途トイヒ畜
生ハ百ニお害シテ血肉ヲ食^食トスル者ナレハ血途ト
イヒ録鬼ハウツカレ食ヲホル時爪モ牙モ悉^悉斂
トナレハ刀途ト云也次ニハ難ト云ハ地獄録鬼畜
生ノ之ニ北州ト云想天トヲ加テ五トナレ此ト佛前
佛後ノ時難年亡^亡痛^痛之^之極ノ身世智辨^辨聰ノ者
トヲ初ノ五ニ合セテハ難處ト云也此ハ難處ハ佛
法弘メ難ク又覺リ難シト云意也此ハ處へ出ルシ
惡趣ニ墮^墮トイリハ難處ハ經論ノ吳說アレトモ人ハ
畏^畏ハス

○ 心みどり記 心みどり

穀米敷トカクニ餘ノ人トナラビモトモク明ラカニ辨レルヲ云ク

○ 心ぬをまき 心ぬをく

イヤナ事ノ心 春虫體ノ土ヨリムグメキテ出ル形也

○ うしあし

心多ク 未^{ウタカマ}必^{イマカレ}トヨリ 水ノ泡ノ事ヲモ云フ ソトノ心モアリ

泡^{ウタカマ}トモ事也

○ かゆをまきぬ 生衣也 縑^{カトリ}也

かゆをハかきおりの 搥ぬ斤糸もくおるなる斤減と云 冠詩考 生衣の條

○ 一切は男子をハハシム乃父

大し業本生心地親經二卷報恩品云於多生 中互為父母以互為父母故一切男子 是慈父一切女人即是慈母矣

○ 南枝向暖北枝寒

詩話 葱龜ニアリ 紅梅ノ詩也

○ 漁翁夜傍西岸宿 曉汲清湘燃楚竹

柳子厚子カ詩也

○ 落石難上枝 破鏡不重照

五燈會元 十之卷ニアリ

心多ク 未^{ウタカマ}必^{イマカレ}トヨリ 水ノ泡ノ事ヲモ云フ ソトノ心モアリ

○岸花紅照水洞樹羽卒含風
山总開似錦河水法如藍

杜子美カ
詩心美カ
珍名後アリ

○神者依人之敬增威

式目アリ

○天竺此書文も唐古乃詩賦也

法華ニ云ク文筆讚詠ト云ヘリ此文ヲ大唐
ニテ天台ノ家ノ師注スルトキ文ハ謂ク歌詩之類流
筆ハ謂ク銘賦之類顯徳謂ク之ヲ讚寄ノ情
謂ク之ヲ詠トイヘリ此類ヲ書文ト云ヘル乎但シ

江談抄 都左中

白雲似帶圍山腰
青苔如衣負巖壁
昔口衣きしる石ハハ
ひろんきぬく山乃
草ナシハホモ

書文ト出セルコト編年通論十二卷ニ貝葉
書文咸歸冊府イリ然ハ經ヲ貝葉ト云
故ニ靈文トハ經ヲサス歟但シ佛經ハ如此ツカヒ
ツケザルガ天竺ハ月氏國ノ事也書文ハ經文ノ
事也唐古ニテハ詩賦ト云ハ天竺ノ經文ト同ク
也ト云義也

○老たる馬ハあゝ福共道せらるる中

韓子外傳云齊桓公孤竹ヲ伐時春ユキテ
冬ニテ還ルカヘリサマニ道ニマヨヒタル也管仲
ト云ナ者カ云ヤウハ老馬ハ道ヲシルモノナバ老馬ヲ放

シテ其跡ニ付テ行ヘシトテ老るノアトニ付テユク 下畧
因ニテ云 絹四丈シ一匹ト云フ 風俗通云馬夜行之時
夜目照目前四丈故呼馬亦謂之匹ト

○

巫山此宮ハ○陽其玉乃也中に○持もん乃

竹も染る

久選十九高唐賦云
朝為行云暮為
行雨朝々暮々
陽其玉下

巫山ノ神女陽其玉ニテ襄王ト夢タニ會ハスル神女
ニツカライフ事ハ一女ハ巫山之女陽其玉之下朝
為行云暮為行雨ト云云ハアダナバキエ
マスキト云ヘル也
楚ノムスノ娥皇ト女英ト舜ヲシタヒテ林是國ノ畔ヲ

班 姓也
ツラナル
ワカッ
班 駁也
文也
ミダラ

サマヨフテ湘江ノ邊ニテ舜ノ山明渚ト云テ渚死アツテ
九疑ト云所ニ舜ヲ戀シタヒテ泣ケル 淚林是國
ノ竹ヲ染テ今ニ斑竹トナル 斑 斑 淚竹ニカリテマタラ
トナル
娥皇女英ハ堯ノ二女舜ノ妃ニ女トハ二人ナカラ
堯ノ女舜ノ妃舜ノ巡狩トテ渚カリト號シテ
天下ヲメグリ民ノ愁モアリヤト見メグリ給ヒシニ
蒼梧ト云處ニテ山明渚アリシヲ娥皇女英其
別ヲシテ瀟湘マテ舜ノ渚跡ヲト行シガ終ニコ
ガレ死ニ死ナレタルヲ瀟湘ニ廟ヲツキテ二女廟ト
云也

○ 玉首ノ刃ハ夕白ノ上ノハラ也千ジノオトツノ中將ノ
時ハ此ノスメニ豊後ト云モノ肥前國ヨリ玉首
ヲ出洋トテ京ヘホリト也サルニヨリテ謡ニ我等モ
豊後ノ國ノ者モ玉首ノユカリトモナシトハレリ

○ 寒林小骨モウ川。幾生乃ソ吾モ悦ふ

河育王辟言喻經分別功德論筆等ニ出タリ

○ 鳥以魚人如浦朽テ。鳥敬るふ

刑鞭蒲朽燃電空去。諫鼓音深鳥不敬

小野國風詩ニコレハ無為ニテ治マルト云コトヲ作リ

或曰大江朝綱ノ詩ト刑鞭ハ刑罰ニ用ル鞭也

劉寛為吏トキ蒲ヲ以テ鞭トセシ故事ヲ使フ
書空去トハ礼記季夏月腐州紀為螢
諫鼓ハ前漢賈誼カ傳ニ出タリ淮南子ニ云
堯敢諫ノ鼓ヲ置舜誅謗ノ木ヲ立ツニ國志
魏文帝記注ニ管子曰禹立建鼓于朝是
皆聖代無為ノ記ニシテ此ニ句羊自題ノ體ニカチ
我國ノ絶唱ナルユヘニ人々クチスサメリ

○ 桃李也如以之

史記李廣傳ニ 桃李モイハズ下蹊ヲナストアリ

桃李不言下自成蹊

○ 五 衰

身光不現

花鬘曼荼羅

兩腋流汗

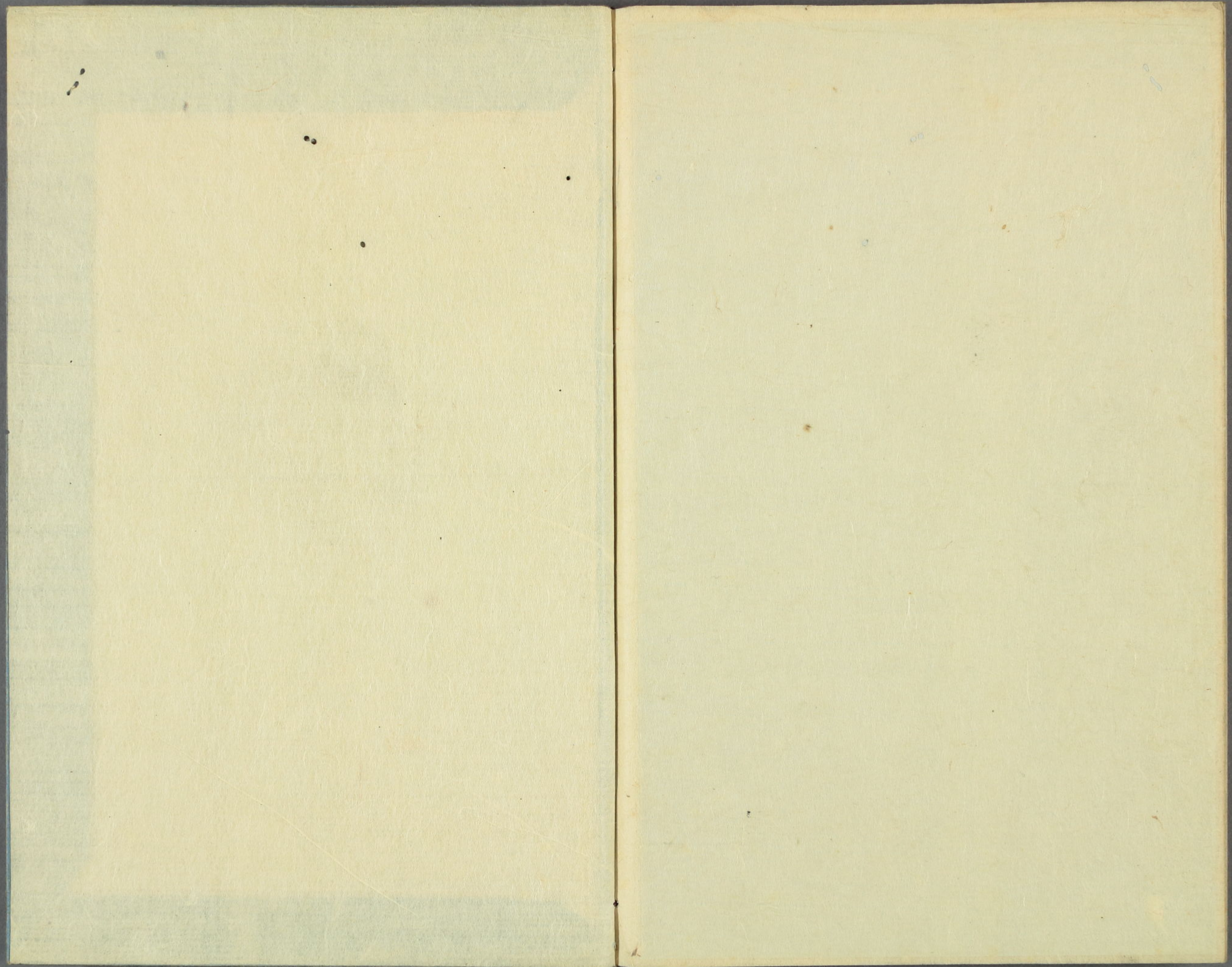
躰便臭穢

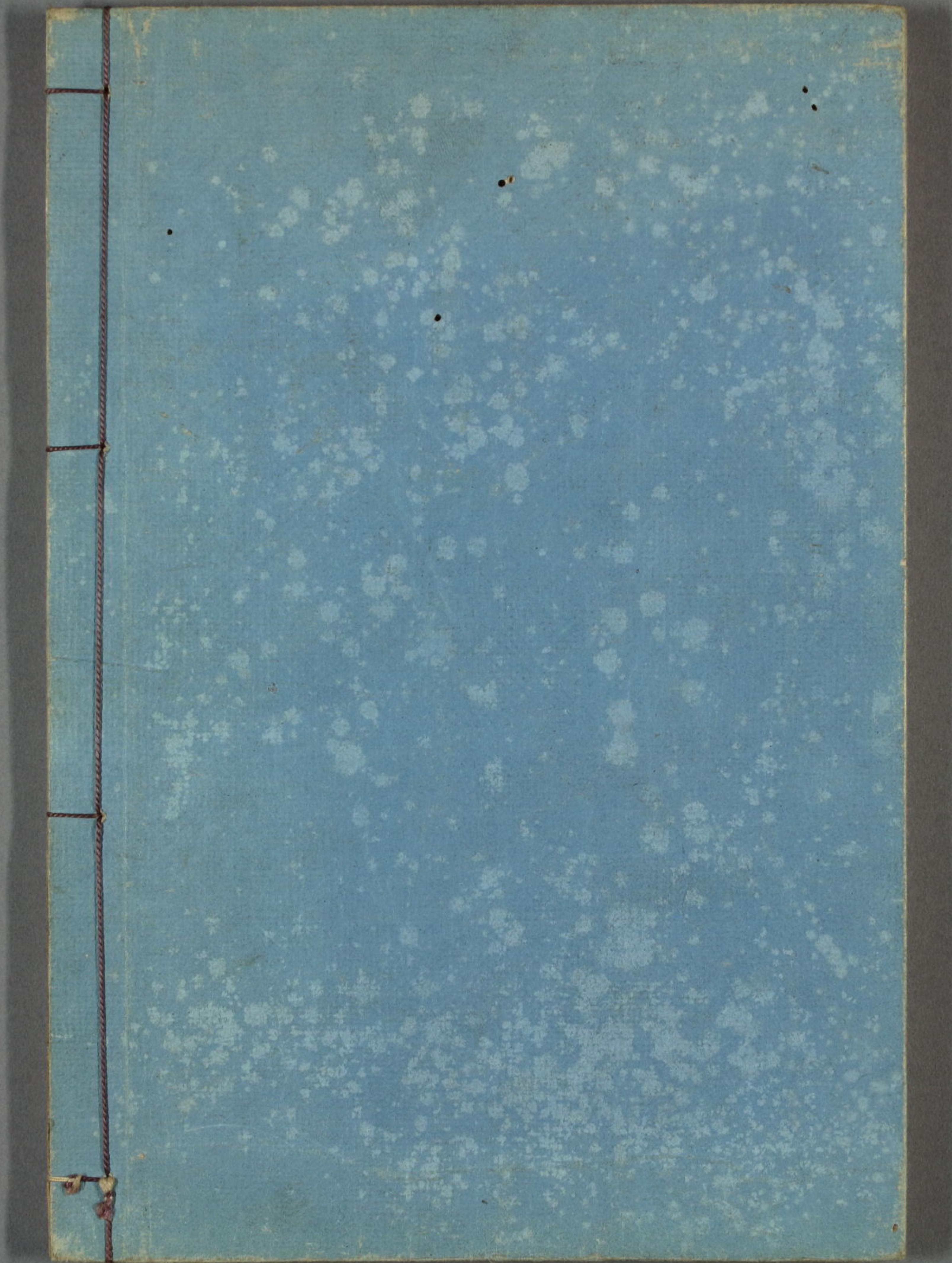
不樂本座

以上天上之五衰也

○ 加 祿 寺 人 寸 人

カ子ハ金山ノ字訓也 錦山ニマキレ又ヤウニ和儒ノ唱ツケタルン
又經山アル故也





江戸

足中より由りいさむん狂言
燕子花あしむいり有物
下り花あしむいり有物

香

江戸

香